

## オリエンタル系ユリ切り花の 品質保持剤による日持ち性及び品質の向上

オリエンタル系ユリ切り花の日持ちは一般に7～10日程度と比較的長いですが、7～9月の高温期には、日持ちが短くなるとともに花が小さくなり、また花色も淡くなりやすいなどの問題があります。そこで、新潟県農業総合研究所園芸研究センターでは、ユリ切り花に対する市販品質保持剤の日持ち及び品質の向上効果を明らかにしましたので、その概要を紹介します。

### ☆ 技術の概要

#### 1. 前処理とその効果

- 1) 収穫後、通常の水あげの際に市販品質保持剤（球根切り花用前処理剤）を、使用基準で処理（0.15ml/Lで24時間程度）するか、または短時間吸液処理（1ml/Lで2時間）します。
- 2) 前処理することで、花の日持ちが2日程度長くなり（図1）、葉の黄化を抑える効果がありますが、無処理と比較してピンク系の品種では花色がやや淡くなります。

#### 2. 後処理とその効果

- 1) 開花前の切り花を切り戻し、市販品質保持剤（糖質・抗菌剤含有後処理剤）を、使用基準で処理（50倍で連続吸液）しながら開花させます。
- 2) 後処理することで、ピンク系の品種では花色が濃くなり、上位の蕾を大きく開花させる効果があります（図2）が、葉の黄化が早まり、また、日持ちは伸びません（図1）。

#### 3. 併用処理の効果

- 1) 前処理と後処理を組み合わせることで、花の退色と葉の黄化を抑制しながら、花の日持ちが長くなり、上位の蕾を大きく開花させる効果が認められます（図1、2）。

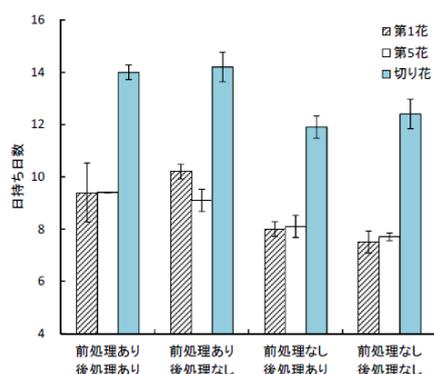


図1 花の日持ちに及ぼす品質保持剤処理の影響

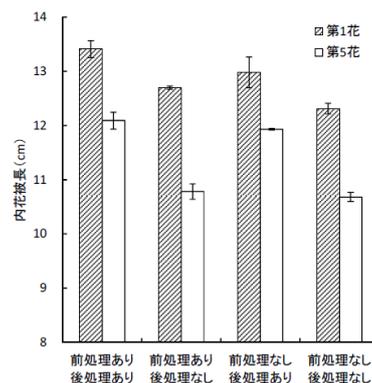


図2 花の大きさに及ぼす品質保持剤処理の影響

### ☆ 活用面での留意点

1. 導入の際は、流通・販売者等と連携したうえで実施し、とくに後処理の実施については消費者段階の処理となるため、販売時の情報提供の方法等を十分検討する必要があります。
2. 詳しいことは、新潟県農業総合研究所園芸研究センター（TEL:0254-27-5555）までお問い合わせください。（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 吉岡 宏）